

平成30年度第3回

八王子市総合教育会議議事録

日 時 平成31年2月15日(金)

場 所 議会棟4階第3・第4委員会室

第3回総合教育会議次第

1. 日 時 平成31年2月15日（金）
 2. 場 所 議会棟4階第3・第4会議室
 3. 議 題
 - (1) 平成31年度当初予算（案）における教育・子育て等関連事業について
 - (2) 家庭教育支援について
 - (3) 「スポーツ推進計画」の中間見直しについて
-

八王子市総合教育会議

構成員（5名）

八王子市長		石 森 孝 志
八王子市教育委員会	教育長	安 間 英 潮
八王子市教育委員会	教育委員	村 松 直 和
八王子市教育委員会	教育委員	柴 田 彩千子
八王子市教育委員会	教育委員	笠 原 麻 里
八王子市教育委員会	教育委員	伊 東 哲

説明員

総合経営部長	小 山 等
財務部長	立 花 等
子ども家庭部長	豊 田 聡
学校教育部長	設 樂 恵
学校教育部指導担当部長	斉 藤 郁 央
生涯学習スポーツ部長	瀬 尾 和 子
図書館部長	石 黒 みどり

事務局

総合経営部経営計画第二課長	上 川 正 高
学校教育部学校教育政策課長	橋 本 盛 重
総合教育会議専門管理官	野 村 みゆき

【午後1時30分開会】

○野村管理官 お待たせいたしました。皆様こんにちは。只今から、平成30年度第3回八王子市総合教育会議を開催いたします。

○野村管理官 最初に、市長から御挨拶をいただきます。

○石森市長 皆様、こんにちは。今年度最後の総合教育会議になりますけれども、大変御多用の中、御出席いただきましてありがとうございます。先日2月3日には御案内のように中学生の駅伝大会がございました。八王子の選抜チームが参加をいたしまして、御承知のように男子、女子、総合、それぞれ優勝という快挙でございました。大変うれしいニュースでございまして、来週、優勝報告にお越しいただくことになっております。まず八王子の子どもたちがいろんな分野で活躍をすること、これは我々にとっても大変すばらしいこととございますので、今後も大いに八王子の子どもたちに期待をしたいと思っております。

既に2月ということで、今月の25日から第1回市議会定例会がございまして、平成31年度予算についての審議がスタートいたします。大きくは二つの重点項目を掲げておりまして、一つは次代を担う子ども、そしてその家庭の支援の取組でありますけれども、平成29年度に子どもの生活実態調査を行いまして、それに基づいて子ども、そしてまたその家庭の支援、これはまた新たな支援策を講じるということにしております。

もう一つが防災力の強化でございますけれども、ご存知のように昨年は、日本各地で自然災害が多発いたしまして、甚大な被害に至りました。それを受けまして、学校施設等もそうでありますけれども、防災力強化に向けて例えば、避難所の環境改善、あるいは緊急時の支援体制の強化、こういったものに取り組んでいくと、そのような形でございます。

また、あわせて来年はいよいよ東京オリンピック・パラリンピックの年でございまして、それに向けましても、さまざまな機運の醸成、こういうものをあげていくというそのような内容になっておりますが、当然、学校教育も充実、これも引き続き進めていきたい、そのように考えてございます。この後、財務部長から、予算案について説明がございまして、忌憚のない御意見をいただければと、そのように思っております。

最後に。御案内のように千葉県の野田市で大変残念な、児童虐待による事件が発生いたしました。どこかで止めることができなかつたかなと、そのように思っているところであります。当然、報道等では教育委員会、児童相談所、こういった対応のまずさがクローズアップされているわけでありましたが、子どもの変化を気づく上では、家庭が一番なんですけれども、学校において、当然毎日のように通ってくるわけでありまして、子どもの状況を把握するには、学校というのは非常に大事だろうと思っております。ぜひそういう意味では学校との連携を図りながら、いじめと同様に早期発見、早期対応、これを心がけてもらえればと思っております。

今日は限られた時間でございますけれども、いろんな予算等につきまして、ぜひ御意見賜ればと思っておりますので、よろしく願いいたします。

○野村管理官 ありがとうございます。続いて、教育長お願いいたします。

○安間教育長 貴重な場を設定していただきましてありがとうございます。

冒頭で駅伝の優勝をほめていただいて、ことあるごとに市長が子どもたちのことをほめていただけるのは大変うれしく思っております。校長会等を通じて子どもたちの様子を見ながらほめてくれているということを伝えようと思っております。また去年は市制100周年の八つのフォーラムの中で、中学生の提言がございましたけれども、その内容を実現するべく、今、着々と進めております、こんなことも、ぜひ子どもたちには、自分たちの声が市政に届くんだという実感として伝えてあげたい。こういった事例を見ますと、市長と教育委員会の連携は、順調に進んでいるなど自負しているところでございます。

今後も、協議調整の場として、総合教育会議を通じまして、より一層、市長と我々教育委員会との連携を深めて、八王子市の教育のさらなる進展のためにここに一丸となって一層努力してまいりたいと思っております。

どうぞよろしくお願いいたします。

○野村管理官 ありがとうございます。

それでは、本日の署名委員を決めます。名簿の1番の、市長にお願いいたします。

○野村管理官 次に資料の確認でございます。

資料1、右片に資料1と打ってある、予算の概要です。それから、資料2がカラー刷りのチラシ。資料3が八王子市スポーツ推進計画の概要版が置いてございます。

以上です。

○野村管理官 では、協議に入ります。

先ほど、市長の御発言にもございましたけれども、平成31年度予算案がまとまったところでございますので、総合教育大綱に係る子ども教育関連予算を中心に財務部長に御説明をいただきます。

財務部長、お願いいたします。

○立花財務部長 財務部長の立花です。よろしくお願いいたします。着座にて説明をさせていただきます。

資料1「平成31年度当初予算（案）における教育・子育て等に関連する新規・充実事業（抜粋）」というこの資料を使って、説明いたします。

それでは、資料をおめくりいただいて、1ページ目を御覧ください。

まず、一般会計の予算規模ですが、前年度に比べて180億円増の2,117億円で過去最

大規模となっております。円グラフ左側の歳入ですけれども、市税収入が912億円で、前年度に比べ13億6,000万円増と見込んでおります。

さらに、国庫支出金や都支出金、市債につきましても事業進捗に伴い、大幅な増額となったところです。一方、右側の円グラフ、歳出ですが、民生費が1,036億円で約半分を占めるという点につきましては、前年度と変わりございませんが、教育費の予算額が270億6,000万円ということで、衛生費と入れかわり、2番目に高い割合を占めるという、子ども関連の予算を中心に積極財政としたところがございます。平成30年度の人口一人当たりの教育費は、本市は3万3,700円で、多摩26市中、24位という順位でございましたが、平成31年度につきましては、一人当たり4万8,100円となりますので、かなり上位に位置することになるかと予想しております。それでは、個別の新規充実事業について説明いたします。

3ページをお開きください。説明は施策ごとにまとめて行いますので、資料の番号がいったり来たりするかと思いますが、御容赦をいただきたいと思います。

まず、学校教育に関する予算です。3ページです。国際理解教育の推進の取組といたしまして、事業ナンバー5、学校企画事業の推進等、外国語指導助手の配置を計上しています。学校企画事業は、児童生徒の豊かな国際感覚を育成するため、東京2020オリンピック・パラリンピック大会に向けて、各学校から企画提案する取組について支援するもので、既存の学校提案事業とは別枠で、教育長一押しの事業ということで、予算化しております。また、英語の授業を理解している生徒の割合を増加させる外国語指導助手につきましては、新たに特別支援学級にも、配置いたします。

次に、いじめ防止対策の取組として、事業ナンバー6、学級集団アセスメントQ-Uの実施についてです。楽しい学校生活を送るためのアンケートQ-Uにつきましては、いじめ等の未然防止及び発生時の迅速な対応を図るためのものであります。全ての小学5年生と中学生2年生、約8,800人を対象に5月と10月の年2回、実施した後、結果の分析等、結果を裏付けるための日常観察、面接などの対応を迅速に行うこととしております。

次に事業ナンバー7、学力向上の取組としまして、アシスタントティーチャーを3人、それから事業ナンバー8、登校支援の取組といたしまして、スクールソーシャルワーカーを2人、それぞれ増員いたします。アシスタントティーチャーの配置は基礎学力に満たない児童生徒数の減少を目標に、スクールソーシャルワーカーの活用は不登校児童生徒数の減少を目標として掲げているところでございます。また、出入国管理法及び難民認定法の改正に伴いまして、増加が見込まれる、日本語によるコミュニケーションが困難な児童生徒や保護者に対応するため、4ページの事業ナンバー9、多言語対応双方向通訳デバイスを14台試行的に導入いたします。資料の4ページの次のところに綴ってございますけれども、参考に添付した上の写真です。手のひらサイズで、74言語に対応できる機器となっております。

次に、教員の指導環境整備の取組といたしまして、4ページですが、事業ナンバー10、研修アドバイザーを配置するほか、働き方改革を推進するため、スカイプを利用したサテライト研修や、教員のタイムマネジメント力向上研修の実施、あるいはQRコードリーダーによる教

員の出勤状況の把握なども行ってまいります。このサテライト研修につきましても、先ほどの下の写真に研修のイメージを載せてございます。それから、この資料にはない継続の事業ですけれども、本市初の義務教育学校、いずみの森小中学校の建設と、中学生に温かい給食を届けます、給食センター2か所の整備につきましても、それぞれ、2020年4月からの開設に向けて、事業を進めてまいります。また、特別支援教育につきましても、現在策定中の第4次推進計画の目標達成に向けまして、学校サポーターや看護師、支援員の配置に要する経費を大幅に増額して、特別な支援への対応の充実を図ることとしております。

次に学齢期の子どもがいる家庭の生活状況や困りごとを把握するために、市長が先ほど申し上げましたが、平成29年度に実施した子どもの生活実態調査の結果を分析して、より効果的な事業の構築と既存事業の充実を図った内容について説明いたします。3ページに戻ってください。3ページの事業ナンバー1、無料学習教室と事業ナンバー2、ひとり親家庭への学習支援者派遣の対象について、拡大をいたします。ひとり親家庭にはこのほか自立支援策として、ホームヘルプサービスの対象拡大いたします。さらに、ひとり親家庭の親子が、家庭間で触れあう機会を増進するため、体験活動を中心としたバスツアーを実施いたします。

次に、全ての子育て家庭に対する支援策といたしまして、事業ナンバー3、子ども食堂の運営支援、それから4ページの事業ナンバー11、家庭教育力の向上を目指した、フィーカ・ファシリテーター養成講座の開催、子どもたちの多様な体験機会を確保する、出張体験講座を新たに実施いたします。

子ども関連予算ではこのほか、3ページの事業ナンバー4の学童保育所施設整備と、4ページの事業ナンバー12、放課後子ども教室の週5日実施校の充実によりまして、放課後の児童の居場所づくりを一体的に進めてまいります。なお、学童保育所は平成30年度で、6施設の整備を前倒しいたしまして、定員の増を図った上で平成31年度に3施設を整備いたしまして、待機児童の解消を目指してまいります。そのほかの教育関連予算で特徴的なものとしましては、4ページの事業ナンバー14、東京2020大会に向けた普及啓発、それから事業ナンバー15の総合型地域スポーツクラブ活動環境整備を充実いたします。また、日本遺産の認定を目指して、文化財の継承について、気運の醸成を図るために事業ナンバー13、八王子城跡のジオラマ制作や、歴史イベント開催に取り組みます。

加えて、資料にはありませんが、富士森公園陸上競技場の改修につきましても、日本陸連4種公認の陸上競技場として、2020年の3月にリニューアルオープンをいたします。インフィールドはサッカーなどの多目的な競技に対応した人工芝グラウンドで、LEDナイター照明を8基、装備することとしております。

次に図書館部の事業です。4ページの事業ナンバー16、地区図書室の図書館化ですけれども、本年度は石川市民センターと、由木中央市民センターの地区図書室を図書館として、整備します。その結果、公立図書館は市内9館となります。また、本を返却しやすい環境を整備するために、市内の駅周辺にブックポストを増設いたします。

最後になりますが、4ページの事業ナンバー17の地域づくり推進のところを御覧いただき

たいのですが、学校をはじめとした公共施設の再編をきっかけに、地域における必要なサービスや、施設のあり方などの検討を中学校区において、市民の皆様と協働で進める取組を新たに始めます。都市戦略部に担当課長を配置いたしまして、市と教育委員会の考え方をまとめた方針を策定いたします。

事業効果といたしましては、地域づくりの気運の醸成や、学校施設の老朽化対応及び適正配置の推進による教育環境の充実、公共施設の利便性向上また施設維持管理経費の縮減などの効果を見込んでいるところでございます。

説明は以上です。

○野村管理官 ありがとうございます。説明が終わりました。

教育委員の皆様に向います。平成31年度予算案の中で特に力を入れたいとお考えになっている点ございましたら、それについて御意見を伺っていきます。

村松委員まず、お願いできますか。

○村松委員 皆様こんにちは、村松でございます。私は先ほどもお話をいただきました事業ナンバー14、スポーツレクリエーションの推進というところで、オリンピック・パラリンピックのお話をさせていただければと思います。本市では、平成29年9月に東京2020大会の開催が決定したことを受け、八王子ビジョン2022の分野別計画として、八王子市スポーツ推進計画の基本施策の一つとして、大会に向けた取組を位置づけました。学校教育ではオリンピック・パラリンピック精神の学習を推進するため、先ほどもお話がございました市制100周年の中学生提言から始まって、市内児童生徒はさまざまなオリンピックやパラリンピアンをお招きして、交流し、競技体験を実施しております。教育委員会としても大会開催まで残り520日あまりの中で、プロスポーツ選手やオリンピック・パラリンピアンと触れあう機会を今後さらに設け、スポーツのすばらしさと子どもたちの機運の醸成に努めてまいりたいと思っておりますが、昨年末にオリンピック・パラリンピック期間中のボランティアスタッフの応募が締め切られたんですね。国内外から18万6,101人が応募されたそうです。東京2020大会は観客が1,000万人以上、お見えになると言われておりますが、オリンピック競技大会は42の競技会場で、7月22日から8月9日まで開催、パラリンピックは21の会場で、8月25日から9月6日まで開催されますが、今回の大会は大学生以下の児童生徒はボランティアで参加できないことになっておりますので、せっかく市内の児童生徒がオリンピック・パラリンピックの勉強や体験をしておりますので、期間中、市内の子どもたちをできる範囲で、例えばロードレースに関連したお手伝いを検討してもらいたいのと、確か本年7月21日に自転車のロードレースのテストイベントが行われるとお聞きしているんですが、この、コースのサポーターも募集し、5.1キロの中に市内の子どもたちも来年の本番に向けて、道路は危ないですので、その沿道で例えば応援隊を組織して参加して応援をしてもらったり、八王子のレガシースタッフとして、学ぶだけではなく実体験を通じてスポーツを支える取組ができれば今回に限って、多様な価値観を持ち、地域社会、国際社会の一員として、夢と自覚を持ってもらえるのではないかと考えております。本番が始まったら、子どもたちも夏休みの期間中ですので、

スポーツの祭典に触れあうことが多いと思うんですが、本市は高尾山をはじめ、たくさんの観光客が訪れてくださると思いますので、その本市として観光客を誘致して、お迎えするにあたって、どのようなプランがあるのか、市民や子どもたちを交えて市民参加のおもてなしや今後開催までの啓発方法、お聞かせいただければ幸いです。

以上です。

○野村管理官　ありがとうございます。

それでは、続けて柴田委員よろしいですか。

○柴田委員　御説明ありがとうございました。

この度の予算に関しましては、教育予算の大幅増ということもあり、家庭教育支援というところにも手厚く予算計上されていると捉えております。その中で事業ナンバー17の地域づくり推進事業に着目しているんですけども、この地域づくり推進というのは、地域づくりと学校教育、社会教育がより連携をして学びというところを基軸としたまちづくりを進めていく上で、肝となる事業ではないかと考えております。スクールコミュニティという考え方がありますけれども、学校を核としたまちづくりという考え方ですが、国が出しているのが、小さな拠点としてのスクールコミュニティということとともに、小学校区を想定して、策を講じておりますけれども、本市の場合は中学校区を基本とした地域づくりを進めるということで、中学校区の中には例えば事業ナンバー15の総合型地域スポーツクラブもありますし、それから例えば今回新規事業となります子ども食堂であるとか、その他にも学童保育所とか、放課後子ども教室、拠点となるような学校であるとか、さまざまな公共的な施設があります。こういった中で市民が、いかにこの議論を展開していくのかということ、ただ単に人口減少時代が到来するというので、少子化社会がくるということで、コスト削減という基軸での話し合いばかりを進められるのではなくて、ぜひ「学び」という視点、子どもだけの学びではなく大人の学びという視点にも触れてもらいながら市民が子どもも大人もともに学び合う・支えあう、というような軸でこの地域づくり推進が進められていくということがほかの事業にも波及効果として現れるのではないかと期待しておりますので、この進め方について、ぜひ詰めていただいて、進めていただければと希望しております。

○野村管理官　ありがとうございます。それでは、笠原委員よろしいでしょうか。

○笠原委員　近年、特別支援教育を要している子どもたちが増えておりますが、まず、子どもたちは特別支援教育を受けることになると、とても満足をして、隔世の感があるのですが、行きたいと。そこの先生のところなら行くと。そういうぐらい特別支援教育が子どもたちにはとても非常に役に立っているし、やる気にもさせる。通常教室ではできなかったことをさせてもらえる、あるいは分かるように授業が受けられるというので、とても充実感を覚えている子が多くございます。

また、一方で親御さんですとか、周囲の方も本当にひと昔前ですと、特別支援教育が必要だと言われることを恥じるというか、そういう風潮もあったかと思うんですけども、今はむしろそれを受けたいから、診断書を書いてくださいというような方もしばしばいらっしゃって、

そういう意味では、随分変わってきている。それは、子どもたちを支えるのにとっても充実してきていることだと思っています。一部には特別支援教室であることを、少し敬遠してしまうような風潮もまだまだありますので、さらなる周囲の理解の向上をお願いしていきたいなと思っています。今回、不登校対策ということではあるんですけども、スクールソーシャルワーカーの増員、それからスーパーバイザーの配置ということがうたわれまして、非常にこれはすばらしい考え方だと思っています。そもそも不登校自体がとて複雑化しておりまして、家庭や個別の問題が多くございますので、学校の先生が抱えるにはあまりにも問題が複雑すぎる、あるいは専門分野、あるいはプライバシーにかなり踏み込まなければいけないというようなことになるので、このスクールソーシャルワーカーの増員は非常に必要なことで、役に立つのではないかと思います。これはしいて言えば学校の先生の働き方改革にも、先生の負担を減らすということにも結びつくのではないかと考えております。そして、先ほど市長がおっしゃったように、虐待の問題も学校で気が付かれるということが多いかと思っています。これは不登校に限らないと思いますが、不登校はもちろん大きなサインになりますし、学校に来ている子どもがこれは、ちょっと心配だという時に、そういうことを担任の先生が気付いたら、すぐにスクールソーシャルワーカーに相談ができるなどのシステムがあれば、先生方の対応、学校でしなければならないことの対応が迅速に行える、判断もできるということで、非常に役に立てていけるのではないかと考えております。

特別支援教育の将来像ですけれども、現在、発達障害に対して、特に八王子市の特別支援教育推進計画は大変充実していると思っております。アセスメントや対応、そして教員研修に至るまで、非常に丁寧に組まれていますので、充実しているなと思っています。これをさらに推進してもらおうと同時に今後サポートが必要なお子さんというのは、増えてくると考えます。というのは、小さい子どもが生まれてから幼児期にいろんな障害を抱えるんですけども、その子たちが生き延びる時代になってきております。小児がんも治るような時代ですので、いろんな微細な問題を抱えたお子さんが通常の学校にあがってくることが考えられます。そういった微細な問題を抱えた子にも目が向けられるような丁寧な特別支援教育のあり様があると、将来、子どもたちが、その子たちが人の世話になって生きるのか、自分で自立して生きるのかの分かれ道になるんじゃないかなと考えます。子どもが少なくなり、社会の資源が難しくなっていくという中で、社会の負担を考えた時にも、その子たちができないことは、もちろん皆でサポートし合うのですけれども、そのハンディを負った子が、一つでも多く自分のことが自分でできるように育てていくことこそ、今後の特別支援教育の目指すところではないかなと思っています。よろしく願いいたします。

○野村管理官　ありがとうございます。

それでは、伊東委員お願いいたします。

○伊東委員　伊東でございます、どうぞよろしくお願いいたします。

私はいじめ防止対策につきまして、話をさせていただきたいと思います。既に御承知のとおり、このいじめ問題につきましては、教育界における最重要課題でございまして、とりわけ、

本市におきましては、いじめ問題への対応というものについては、学校と教育委員会がより一層、連携を取りながら、複合的、重層的な対策をとっていくべき喫緊の課題であると認識しております。その意味で、この調査は来年度の当初予算案に新規事業として盛り込んでいただきましたことは、きわめて重要でありがたいことであると考えております。

学校では、いじめ問題の未然防止や早期発見を目的といたしましてこの児童生徒を対象としたアンケート調査というものを定期的に行っているのですが、これは2011年に大津でいじめ問題が起きて以来、どこの学校でもやるようにはなっているんですけども、その調査というものは実は、本市でも全ての学校でやっておりますが、例えば友人トラブルで嫌な思いをしたことがあるか、あるいは悩みを相談できる人はいますかとか、ある意味ではきわめてオブラートに包んでいるような形の調査をしているんですけども、これはこれでとても意味があることではありますけれども、例えば、児童生徒が学級の中で、どのような思いをしているか、あるいは学校での生活について、どのような思いをしているかといったもう少し細かい状況についての調査というのは、もうちょっと質問項目を多くする必要があるわけがございます。

今回、計上していただきましたQ-Uというのは、児童生徒の心理的な側面を質問紙を用いて、より深くはかれる調査でございまして、早稲田大学の先生が作ったもので、小学校から高校まで近年、広く利用されているものでございます。この調査で把握できますことは、まず、児童生徒の所属する学級集団が居心地の良い場所になっているかどうかということ把握することができまして、例えば、トラブルやいじめなどの不安がなくリラックスできているかとか、あるいは自分がクラスの友達から受け入れられ、考え方や感情が大切にされていると感じているかとか、こういったようなことが一つ調査できます。もう一つは児童生徒が学校生活に意欲や充実感をもって取り組んでいるかどうかについて、友人や学習、学級、あるいは先生のこと、進路などに関するいくつかの領域についても細かく調査することができます。

学級の状況について、これまでもその学校の先生方はきちんと自分の学級はどういう状況なのかということ把握はしているんですけども、それはやはり長年の経験や、あるいは個人の感じ方、教員それぞれによって、基準が若干ぶれている。まちまちであるといったこともこれは現実的なものでございまして、こういうような調査というものを、エビデンスとして、全員で学年の先生方、あるいは学校の先生方皆で調査の結果を見て、自分の学級に対する見方とか、考え方を統一する。判断基準というものを、一つ確固なものを作っていく、それをもとにして、学級を見る基準を共有したりすることで、それぞれの学級が抱えているような課題や取組方針を一致して対応ができるという、そういう意味では非常にこの調査の使いかたをしっかりとやることによって、効果のある対応ができるのではないかと考えております。こうした取組を継続的に行うことによりまして、児童生徒の内面の状況をより丁寧に把握することができると思います。いろいろな悩みを抱えている児童生徒への対応が適切に行えることが、ひいてはいじめ問題や不登校問題、学校生活に起因するような問題、こういったものへの解決にきわめて有効であると考えております。

予算的には高額なんですけれども、費用対効果につきましては、期待できるものと考えてお

りますので、御検討のほどよろしくお願ひしたいと思います。

○野村管理官 ありがとうございます。

それでは、教育長いかがでしょうか。

○安間教育長 只今、それぞれの立場から4人の教育委員からお話をいただきました。

例として、挙げていただいたようないじめ防止対策の一層の充実、これはもちろんのこと、確かな学力の向上、家庭教育の支援。また東京2020オリンピック・パラリンピックに向けた取組の推進など、本当に予算には御配慮いただきました。改めて、市長に感謝を申し上げます。

しかしながら、この予算、どう成果にしていくのかというのが、これから大事なんだろうなと。今、お話ありましたQ-Uテストにしてもこれはあくまでも、子どもたちの様子を把握するためのものですから、それをいかに生かして、指導できるかというそこがポイントになってくるわけです。また、東京2020の特別企画予算についても、打ち上げ花火的にやって、もうそれで終わってしまうというのではなくて、レガシーとしてどれだけ残せるのか。そのような中身が肝心なことなんだろうなと。そういう意味では本市の教育行政を担う立場として非常に身の引き締まる思いでございます。また、これ以外にも山積しているほかの課題がございます。昨年末から策定に着手をいたしました、第3次八王子市教育振興基本計画、ここに反映をして今後も一步一步着実に取組を進めて、教育行政の推進を図ってまいりたいと思っております。

平成の時代が終わりまして、新たな幕開けの年、次の100年の一歩の年、この時に冒頭に市長に中学生駅伝の話をしていただきましたが、中学生がこの年、スタートの一番先のところで完全制覇してくれたというのは、幸先の良いことだろうなと考えております。教育委員一同、一層気を引き締めて取り組んでまいります。

○野村管理官 市長、いかがですか。

○石森市長 それぞれ、委員の皆様から専門の分野の貴重な御意見をちょうだいいたしました。

新年度につきましては、述べてございましたように次の100年に向けていろんな形で、ボリュームがある、そんな予算案となりました。特に、新年度、ハード面で全体を膨らませているようなそんな状況でございますけれども、新たな事業も当然うたっておりますし、それぞれ皆様方には御評価をいただきながら、中身についていろいろ御意見をちょうだいいたしましたので、できるだけ取り入れながら、新年度、しっかりと施策を前に進めていきたいなど、そのように思っております。大変、貴重な御意見ありがとうございました。

○野村管理官 ありがとうございます。

では、次の議題に移ります。

○野村管理官 教育委員会が従来発信してまいりました家庭教育啓発リーフレットを改定いたしました。民生・児童委員、それからPTAの関係者の方々と一緒に協議を重ねて、八王子の

「いえいく」はちおうじっ子の未来を育む四つの合い言葉、として家庭教育の重要性を伝えていくということになりました。

八王子の「いえいく」の内容の御説明をいただくとともに、家庭教育支援の大切さについて意見交換をしたいと思います。まず、生涯学習スポーツ部長、八王子の「いえいく」についての御説明をお願いいたします。

○瀬尾生涯学習スポーツ部長 生涯学習スポーツ部長の瀬尾でございます。よろしくお願いいたします。着座にて失礼いたします。

それでは、私からは意見交換に先立ちまして、こちらのパンフレットにつきまして、内容を説明させていただきます。家庭教育リーフレットの見直しをしたものでございますが、地域全体で子どもと子育て家庭を考えるというコンセプトをもとに、市民の皆様から共感を得られるようなことという方針をもって作ったものでございます。特徴につきましてリーフレットを見ながら、説明させていただきます。

まず、表面の中央を御覧ください。家庭教育というと固いイメージだという意見が聞こえてまいりますので、中央の八王子の「いえいく」というのは市民の方に親近感を持ってもらえるように、八王子の家庭教育を表す造語としてつくり統一をしたものでございます。

二点目は上段を御覧ください。この「いえいく」という言葉をテーマに自己肯定感であるとか、ほかの方を大切にすることというイメージして、標語を掲載しました。「たからものじぶんとかぞくとおともだち」という標語につきましては、八王子市青少年対策地区委員会健全育成標語の中から選ばせていただいております。

三点目は、中央の四つの四角でございますけれども、家庭と地域に向けた「はちおうじっ子の未来を育む四つの合い言葉」としてしています。「いっしょに遊ぼう学ぼう」、「みんなで話そうつたえよう」、「いっしょに食べるとおいしいね」、「あったかくつながるころ大切に」ということで、ともに取り組める言葉について示したところでございます。そのそれぞれの中に、「いえいく」の文字が入っているように工夫したところです。

四点目は最上段と最下段に絵を表示しております。こちらは地域全体で子どもと、子育て家庭を支えるというコンセプトがイメージできる絵画を掲載しております。この6点の絵画は平成29年度に実施しました市制100周年記念事業の「ぼく・わたしたちの八王子 子ども絵画コンテスト」の中から家庭の温かさや地域のつながりがイメージできる作品を選んでいきます。五点目は全体的になりますが、共感をもってもらえるようにできるだけ文字数を少なくし、例えば叱るといったような言葉は使用せず、多様な価値観に配慮をしております。

六点目は裏面の中段から下段ですが、家庭と地域に向けたメッセージとして、家庭でできること、あるいは地域でできることといったことで、それぞれに求める役割を掲載しています。

この作成にあたりましては、先ほど御説明ありましたように民生・児童委員や、小中学校のPTAの関係者、小中学校の校長先生、保育園・幼稚園の園長先生により構成された家庭教育の啓発の検討会や、庁内の関係所管との会議、あるいは家庭教育支援アドバイザーの方々からの専門的なアドバイスの意見をいただいた上で作り上げたものでございます。今後、4月には

保護者の皆様に配付をするとともに効果的な啓発となるように、町会への回覧や、保健師による母子訪問時の配布などさまざまな周知を図っていく予定となっております。

説明は以上です。

○野村管理官 ありがとうございます。

それでは、社会教育にも関連するかと思いますので、これについて柴田委員、御意見いただけますでしょうか。

○柴田委員 「いえいく」についての御説明ありがとうございました。「いえいく」をこれから推進していくために、子どもたちが温かい家庭の中で、心の落ち着く家庭を居場所と捉えて過ごしていくために、やはりその環境をつくる保護者、特に母親の支援を行うことが必要なのではないかと思えます。この度の予算に関しましても、そういった意味で放課後子ども教室であるとか、それからひとり親家庭への支援であるとか、学童保育所の充実といったところに予算がたくさん計上されております。貧困といった観点から考えていきますと、貧困にもいろいろあって、絶対的・経済的な貧困はもちろん支えなければなりません、相対的貧困という考え方がございまして、当たり前前の生活ができない状態である人を、相対的貧困というふうに捉えることができるんですけども、今、こうした子育てを孤独の「孤」と書いて、「孤育て」というふうに呼んだり、そういった子育ての環境の中でストレスが溜まって我が子に手をあげてしまう、そういう保護者がいて虐待につながるというような問題もございまして。そういった保護者は相対的貧困という状況に置かれている場合が多くて、多くの場合、相対的貧困は時間の貧困、自由になる時間がなくて、イライラしてしまうというようなデータがあります。昨年、東京学芸大学とベネッセコーポレーションと共同研究で子育て中の母親に対するアンケート調査を行ったんですけども、そのアンケートに答えてくださった母親たちは、一般的に言って、教育熱心な母親であるのですが、その中から得られたデータは、一生懸命子育てを頑張っている母親に多くの葛藤が見られまして、その葛藤の最大の原因が時間の貧困ということが明らかになりました。時間の貧困というのは、自分の自由になる時間があまりないとか、子育てだけで、子どもが大学卒業するまでそこに手をかけて、自分が働かなければならない、いろいろ役割もあるという中で、もう時間が20年くらい過ぎちゃうのではないかというような心配であるとか、そういったデータが出てきましたけれども、そうした中で、こういう学童保育所の整備であるとか、それから、特に女性の活躍推進ということで、女性にいろんな役割が求められていますけれども、そういった中で一方で子どもの非認知的能力、あるいは社会情緒的スキルとか、学びに向かう力というものを育成するために、子どもにさまざまな体験を小さいころから施すことが必要だと教育界が発信しているわけなんですけれども、そういったことも家庭教育の中で十分にできない。そこでまた葛藤を抱えてしまう母親、そういう循環を社会の力で断ち切ってもらいたいなということで、今回の予算の中にも計上されています生涯学習事業の事業ナンバー11、12のところ。たくさん体験講座を多くの子どもたちに社会の力で提供していくということも家庭教育支援につながるのではないかと思いますし、特に経済的な貧困の状況にある家庭支援に関しましては、放課後子ども教室とそれから子ども家庭部の事業で

ある子ども食堂の事業、ここが情報交換などをするなど、交流をして家庭をしっかりと把握してという、そういうようなことが必要になろうかと思えます。

以上です。

○野村管理官 ありがとうございます。

それでは、保護者の代表と申しますか、村松委員、そのお立場からお願いいたします。

○村松委員 現在の八王子市の家庭教育8か条は子育ての心構えや理念が書かれていまして、保護者にこれを読んでもらいたいという熱意がすごく伝わってくる気がして、私もうちの子どもが新入学の時にチラシをいただいて、読んだ記憶がございます。この八王子市の家庭教育8か条が作成されたのは、多分10年くらい前ですかね、平成に入ってから共働き核家族が、大変増えて、テレビやインターネットからの情報があって、教育の考え方も随分変わったように感じております。先ほど柴田委員もおっしゃっていましたが、経済格差が生じて、放任あるいは過保護が目立ち、地域参画の低下も懸念されておりますし、親は子どもの教育を学校や地域だけに任せるのではなく、子どもにとって何が重要なのかを今一度、考えていただきたい。生活習慣、思いやり、公共道徳、自立心、自尊心、こういうしつけ等は本来全て、保護者が経験したことを子に伝えるのであって、しつけとマナーは家庭の責任です。学校は勉強する場、行政はあくまでも家庭教育支援という立場ですので、今後、ITやAI等のテクノロジーが発達して暮らしが便利になっていって、人と人との関わり合い、関係が薄くなっていく世の中でも積極的に保護者は学校行事、PTAまたは地域行事に参加して、コミュニティで得た知識を子どもたちに伝えていくことが今後一層重要になってくるのではないかと思います。子育てに対する不安や負担を感じる親が、昨今増えているとしても、家族団らん、情操教育について保護者の皆様が家族でその重要性を再確認していただきたい。こちらの「いえいく」の表にもございますけれども、友だちと遊んで勉強して、1日の終わりに家族みんなでご飯を食べる、ぐっすり眠る、そんな当たり前のことが当たり前の世の中になっていってほしいと願いを込めて、このチラシを作成していただいたと思えます。

「いえいく」は私は本当に保護者、地域にとって重要なメッセージと捉えておまして、来年度から御家庭に配付していくことになると思うんですが、単なるメッセージやチラシで終わるのではなく、社会の変化や状況に応じて、第2第3の「いえいく」の進化形の啓発も念頭においていただいて、関係所管の皆様がより一層の教育の支援の充実、提供の推進を頑張って、やっていっていただければ保護者もそれにこたえてくれるのではないかと考えております。

以上です。

○野村管理官 ありがとうございます。

それでは、教員長お願いいたします。

○安間教育長 改めて、家庭教育の重要性というのはもうほとんど社会的に認知されているんだろうなと。だからこそ、社会全体での家庭教育支援の必要性、これは高まっていく。このようなことを踏まえまして、今回、小中PTA関係者などから意見を聞きながらリーフレットを見直したところでございます。今回のリーフレットの見直しでは、「いえいく」という言葉に家

庭でこの四つの取組を意識して子どもを見守ってもらいたい。そして、地域もそれを応援してほしいなど。そういうメッセージを込めました。現在、いじめ問題の対策もありまして教育委員会では市内の小中学生全員に何でも相談できる大人が誰か1人は必ずいるんだと。そんな体制の構築を目指しております。ただ、その保護者も本当に困った時、悩んだ時に相談できる人が必要なんだと。その二つの条件が揃って初めて、子どもにとっても誰にでも相談できる大人、安心できる関係というものがあ得るんだと考えております。今回のこの取組で地域が支えになるからねと。まさに裏面にありますような、あなたの後ろにはおせっかいおじさん、おばさんが必ずいるんですよ、例えば、学校の担任の先生とのやり取りで困った場合には、もう大ベテランがこの八王子の地域にはいるわけですから。そういう時にはね、先生がこんな言い方をすると動いてくれるのよ、なんてアドバイスしてくれる方がいっぱいいます。ぜひ、そんな思いが悩んでいる保護者に届いて、子どもも保護者も安心できる、そんな関係ができればいいと考えております。今後もこの取組を通じて、保護者と子ども、その両者が笑顔で過ごせる家庭、地域、学校の連携を深めてまいります。

○野村管理官 ありがとうございます。市長いかがでしょうか。

○石森市長 良いですね、このリーフレット。

家庭教育の重要性、これは本当に大切なわけでありましてけれども、村松委員からもお話がございましたように、今、昔と違って核家族化とか、共働き世帯、その増加に伴って当然、子どもと接する時間というのは昔と違って、極端に少なくなっている、そういう家庭がやっぱり増えてきているんだらうと思います。本当に子どものいろんな悩みとか、そういったものを受け止めてくれるのはもちろん、親が大切でありますから、せっかくこういった良いものを作ってもらいましたから、いかに保護者の皆様にこれを伝えていくかという課題も、役目であると思っておりますので、生かしながら家庭教育支援の充実を進めてもらいたいと思います。

○野村管理官 ありがとうございます。

○野村管理官 それでは、報告に移ります。

スポーツ推進計画の素案がまとまり、パブリックコメントを求めることになりました。

生涯学習スポーツ部長、ポイントについてお話をいただけますか。

○生涯学習スポーツ部長

「八王子市スポーツ推進計画〔改訂版〕(素案・概要版)」を机上に配付させていただいております。ポイントということで、概要版を使いまして、説明をさせていただきたいと思っております。

表紙1ページ目に計画の基本的な考え方について、まとめておりますが、本計画につきましては、平成26年3月に策定をし、策定後5年目にあたるということで、その間に生じた社会情勢の変化などに対応するために改定を行うものでございます。中央にございます計画につきましては、スポーツ基本法第10条に基づきまして、教育委員会が定める計画となっております。

この見直しの基本的な考え方といたしましては、中間改定であり、上位計画等の大きな方向性が変わっていないことから、計画の基本理念、基本方針、基本施策は原則、変更しないこととしておりますが、施策の方向性については現行の計画を基本としつつ社会情勢の変化や国の政策動向、あるいは東京2020オリンピック・パラリンピックのもたらす効果などを見据えまして、新規や重点施策を設定しております。その上で、「主な取組」ということで、「する・みる・支える」の三つの要素を踏まえまして、これまでの計画の進捗状況等を確認した上で、その内容を設定、修正をしたものでございます。

計画期間につきましては、平成26年度からの10年間の計画であるため平成35年度（2023年度）までとしておりましたが、関連するほかの計画との整合性を図るため、中間改定を機に一年間延長し、平成36年度（2024年度）までとしております。

資料おめくりいただきまして、2ページ目を御覧ください。素案策定までの流れでございますけれども、計画を見直すにあたりましては、これまでの社会環境の変化や、スポーツ推進計画の中間評価のまとめをもとにしまして、今回の計画改定で重要となる視点について整理しました。ここに書かせていただいておりますスポーツを通じた共生社会の実現や、オリンピック・パラリンピックレガシーの創出ということになります。これにつきまして、スポーツ推進審議会や、教育定例会の協議などを踏まえまして、それと同時に市制100周年記念事業のビジョンフォーラムや、市民の方々の意見要望調査などの意見を取り入れて、改定素案となったものでございます。

続いて、3ページ目を御覧ください。計画の数値目標につきましては、市民の週1回以上のスポーツ実施率と、総合型地域スポーツクラブ数の2項目となっておりますが、それぞれの目標につきましては、水準が非常に高いものであり、まだ目標達成もしておりませんので、2022年に目標が達成された場合でもその計画終了年度である2024年まで、目標値の変更はせず、継続ということにしております。

その下の主な新規施策・重点施策につきましては、二つの新規・重点施策の設定の視点をもとに施策1から順番に説明しますと、施策1のライフステージ等に応じたスポーツの推進につきましては、これまでライフステージに応じた切り口で表現をしておりましたが、多様性の考え方を基本軸に添えまして、外国人、あるいは働く人、子育て世代、誰もが楽しめるスポーツの推進や、また現計画に掲げていた障害者スポーツの推進などを重点項目に設定するなどの変更をしております。

次に基本施策の2、スポーツをする場の整備・確保につきましては、先ほど触れました障害者スポーツの推進に関する、都立特別支援学校との連携が重要ということでの計画の新規項目も盛り込んだところでございます。

次に基本施策5のオリンピック・パラリンピック競技大会に向けたアクションとレガシーにつきましては、「みる」、「支える」ということで分けまして、オリンピック・パラリンピックと触れあう機会の創出で、「みる」スポーツ、また「支える」スポーツということでは、今回の改定で、大会の競技に関連した機運醸成のイベントの開催や、聖火リレー、自転車競技ロー

ドレースの開催支援についてなど、東京2020大会の成功を支えるという施策の展開を盛り込んだところがございます。また、オリンピック・パラリンピック教育の推進につきましては、これまでの取組に加えまして、各小・中学校における2020レガシーの構築に向けた取組を想定しております。資料の最後のページには、計画の体系図ということで、主な見直しをした部分について、太字で表記をしております。この素案につきまして、平成31年2月19日から3月20日までパブリックコメントを実施する予定でございます。

その後、教育委員会定例会にて、計画を決定し、7月を目途に公表を予定しているところがございます。

○野村管理官 ありがとうございます。

市長御自身も、ゴルフなどスポーツをされるかと思えますけれども、市民にとってのスポーツに関して、市長のお考えを改めてお聞かせいただきたいと思えます。

○石森市長 残念ながらあまり最近スポーツをやっていないくてですね、体重がだんだん増えてきてしまっている、そんな状況でございますけれども、八王子市はこれだけ大きな規模ということもありますけれども、市町村総合体育大会は毎回優勝しておりまして、もう12連覇でございましたかね、非常にレベルの高い、そんな街でもございます。スポーツ施設につきましても、屋内・屋外含めほかの市と比べても充実していると思っているんですが、ただ、結局どうしても土日に集中いたしますので、その辺はなかなか不足しているという声もございますけれども、それなりに整っていると思っております。特に、エスフォルタアリーナが完成をいたしまして、全国大会、世界大会等も実施されるという状況の中で、このみるスポーツという点では、市民の皆様の中にはかなり大きな効果が出ているのかなと思っておりますし、昨年もいろいろ全国大会を行いました。例えば、年末、小学生のバドミントン大会の全国大会がここで行われたんですね。子どもたちが全国から1,200人以上も参加して、八王子はバドミントンのレベルが高いということで、子どもたちも始める方が多いというのもあるんでしょうけれども、5日間の大会で、当然スタッフの皆様も、保護者の皆様もこぞって八王子にお越しいただいて、街中はトレーニングウェアを着た子どもたちがあふれていたというような、そんな話を申し上げましたけれども、経済的な効果というのかなり大きいと、そんな状況でございます。今年もスポーツライミングの世界選手権が8月に開催することが決定しておりますので、いろんな大会を開催しながら地域の活性化に結びつけていきたいと思っております。当然、オリンピックがございますから、これからまたスポーツがさらに注目をされていく、そんな状況にあらうかと思えますけれども、スポーツにつきましては、子どもたちの育成や、街の活性化、あるいは観光的な効果、高齢者や現役世代の健康づくりの推進など多くのことに結びつく可能性を持っているということです。

この可能性を広げる要素がちりばめられた今回の中間見直しの内容になったと思っております。新たな計画の精神を生かして、市民にも喜ばれるスポーツ環境、これも引き続き進めていきたいと思っております。

以上です。

○野村管理官 ありがとうございます。

教育長、お願いいたします。

○安間教育長 このスポーツ推進計画は法に定める教育委員会の取組として、生涯学習スポーツ社会の実現と、スポーツを通じたまちづくりについて、理念や方針こういったものをまとめたものであります。

特に今回、東京2020オリンピック・パラリンピック大会を契機に多くの市民が多様なスポーツに触れあい、参加できるような取組の充実をしていくことで、このオリンピック・パラリンピックがその後の人生の糧となるようなかけがえのないレガシーとして、市民の体と心に残るようなそんな取組を進めてまいりたいと思っております。

今後とも、八王子市の土壌について市長からお話がありましたとおり、市民の一人ひとり、誰もが生涯を通じて健康で生き生き暮らせるような、身近な地域やスポーツレクリエーション活動を行うことができる、そんな環境づくりを精一杯、進めてまいります。

○野村管理官 ありがとうございます。

ほかにスポーツに関して、村松委員、オリンピック以外でいかがでしょうか。

○村松委員 八王子市は非常に充実したスポーツ環境、今、富士森のほうを見直していただいていますけれども、こちらの3ページの施策5の写真のなでしこジャパンの大野忍さんは私が呼んできたんですけれども、八王子には調べていただければ、もっともっとうこういう方たちがたくさんいると思うんですね。きっと御協力もしていただきと思えますし。子どもたちが目を輝かせて、シュートの力のすごさ、またプロ野球選手の遠投力ですとか、実際に見せてあげると、その時からスポーツってすごいんだと、そう思ってくれるので、そういう流れを大事にして、どんどん子どもたちに夢と希望を与えていければなと思っております。

先ほど質問もさせていただいたんですが、オリンピックって、例えばトーチを持ったランナーが、どうなるかとか、あまりそういうことは見えてこない。また、子どもたちはオリンピックレガシーということで、いろんな勉強をしますけれども、いまいち保護者がピンときていない。そのギャップをどういうふうにしていけばいいかというのも、教育委員会で少し検討していかなければいけないんじゃないかなと思っておりますので、どうか今後とも何より子どもたちのために皆様のお力添えをいただければと思っております。

以上です。

○野村管理官 ありがとうございます。

伊東委員、学校でのスポーツとか、何かお考えはありますか。

○伊東委員 学校ではスポーツが好きな子どももいるんですけれども、中学生ぐらいになるとスポーツがちょっと苦手なので嫌厭するような傾向のある子どもは出てくる。そういった中でやはりスポーツと生涯向き合いながら生きていくことで、とても人生が豊かになるというようなことを、子どもたちにも教えて、スポーツをずっと続けられるような人生を送れるような取組も学校教育の中ではしていく必要があるかなと思えます。八王子市内を最近いろいろ回ってみますと、本当に施設が充実していて、八王子で学ぶ子どもたちは皆幸せだなと思っておりますが、

ぜひこういった施設を活用できるような教育活動を学校でもやっていくように努めていきたい
なと思っております。

○野村管理官 ありがとうございます。

実は本日の予定は以上なんですけれども、少しお時間がありますので…。

○石森市長 村松委員にお聞きしたいことが。

この大野さんを連れてこられたって、ワールドベースボールクラシックでしたっけ、キャッ
チボール、あれも委員の提案で、何か随分顔が広いんですね。キャッチボールを、八王子でや
るっていうそういう機会はもうないんですかね。

○村松委員 一昨年の12月に石森市長に開会式で投げいただきましたけれども、去年は石川
県、来年は愛媛県道後温泉でやるというのが決まってしまったらしんですが、選手会の皆様が、
今現在も特別活動として体育の授業などにキャッチボールクラシックを取り入れて、元プロ野
球選手の方が来て、授業していただいているという取組もしていますので、選手会の皆様は、
ぜひまた八王子市でさせてもらえないかというようなお話をしていたので、市長がやる気にな
っていただければ。

○石森市長 ぜひ、また引っ張ってきてください。

○村松委員 ぜひ、予算をいただければ。向こうも乗り気になっていますので、行政でこうして
喜んで皆様迎え入れてくれるというところはなかなかないみたいなんです。

八王子は特に小学校の授業でも取り入れるということで、ぜひお願いしますということと言
われていますので、また御検討をしていただければと思います。

○野村管理官 お時間もありますので、ここで斉藤指導担当部長に子どもの体力、教育定例会で
も御報告あったと思うんです。この場で、市長にも報告をしていただければと思います。

○斉藤指導担当部長 今、子どもの体力のお話がありました。子どもたちの体力についての全
般的な状況、体力というのはそう一朝一夕に変わるものではないんですけれども、各校の特色
ある取組というのを進めてきておまして、少しずつ全般的には向上しているかなと考えてい
ます。ただ、今話題のあつたいわゆる投げる力、そちらの方についてはまだまだ本市としては
非常に課題のあるところであり、今後も取組を進めていかなければいけないのかなと思っ
ております。私たちは非常に課題に感じているのは、八王子は自然が豊かで遊ぶ場もたくさんあ
つてとよく語られるんですが、実はその子どもたちは、それほど運動していないと。子どもたち
も公園に集まって、遊ぶんじゃなくて一緒にゲームをするために集まっているとか、そうい
ったような、動くということそのものに対する関心というかそういうものが、ちょっと低くな
っているのかなと感じることが多くなっているところがございます。

そういう意味では今回、さまざまなことで予算のほうでも御配慮いただいているところでご
ざいまして、子どもたちもそういった気軽に運動できる機会、それから、場というものも学校
教育の中でもどんどん進めていかなければならないかなと思います。そういった一つ一つが体
力の向上につながっていくかなと考えてございますので、学校教育の方でも、その辺りを今後
も推進してまいりたいと思っています。

○野村管理官 ありがとうございます。

それでは、ほかに何かございますでしょうか。

○石森市長 二点、質問をさせていただきます。

今、学校の施設のあり方について議論をさせていただいておりますが、その途中経過と申すか、その辺がどうなっているのかという点と、もう一つ、いじめに関する第三者委員会、これを開いていただいておりますが、最終的に報告というのはいつごろになるのか。この辺をお聞かせいただければと思います。

○安間教育長 一点目の施設の再編を含めた学校のあり方についてでございますけれども、先日の会見で市長からお話がありました、公共施設の再編を契機とした地域づくりと、この視点はまさに私、日ごろから推し進めている地域とともにある学校づくりということに、相通ずるものでありまして、今回の提案は本当に教育委員会として歓迎をしております。折しも、今年の4月、市長の公約であった学校運営協議会の全校設置、これが現実のものとなります。今後は、ぜひ市長部局と連携をしながら、学校を中心とする公共施設の再編、これを進めていくことを大変心強く感じているところでございます。我々、教育委員会といたしましても、今日も議論してまいりましたが、中学校区を基本とした公共施設の再編、これをぜひ契機にさせていただいて、地域づくり推進事業に積極的に参加をしながら八王子市の街の発展に関与してまいりたいと思っております。

また、合わせてこの再編と切っても切れない関係にありますので、現在、学校選択制の見直しも行っているところでございまして、平成31年度の新制度の周知、そして平成32年度（2020年度）からの新しい制度の実施、その推進に取り組んでまいりたいと思っております。

二点目の第三者委員会の件でございますけれども、市長も十分御承知のことだと思っておりますけれども、第三者委員会というのは独立性だとか、公平性だとか、中立性、これをしっかりと担保しなければなりません。実は我々、市は当事者でございますので、第三者委員会をコントロールできませんし、もしくはしてはいけない立場だということで、従いまして、第三者委員会からの情報提供があった内容についてのみ、我々状況を把握しているというのが現状でございます。それによりますと、現在、八王子市教育委員会のいじめ問題対策委員会の調査部会による生徒、教職員への聞き取り調査を順次行っているところで、調査部会長からはまだ報告時期については決定していないと聞いているところでございます。

以上、報告でございます。

○野村管理官 ありがとうございます。

よろしいでしょうか。それでは、今日予定された議題は以上でございますので、これで終了したいと思います。どうもお疲れ様でした。

次回は平成31年度の第1回は6月5日を予定しています。詳細についてはまた後日、お知

らせていただきます。

お疲れ様でございました。ありがとうございます。

【午後4時15分閉会】